

青森県立保健大学附属図書館だより

ラポール *Rapport*

第7号 2006.10

◇ 『ラポール』は、人間同士（学生&教職員&地域住民&県民）のつながりを意味します ◇

Rapport : フランス語で、関係・関連・類似点



目 次

図書館長就任にあたって	附属図書館長 大和田 猛	2
メディカルオンライン・閲覧Ⅱの使い方（シリーズ図書館を使いこなそう 第7回）		3
— マイライブラリーへの思い —		
一人ひとりの気遣い	看護学科 2年 浦田 真里子	4
アルバイトを通して感じたこと	社会福祉学科 2年 川添 万菜	4
A Super Librarian	理学療法学科 1年 清藤 可奈子	5
居心地の良い場所	社会福祉学科 2年 對馬 幸子	5
— 読んでみませんか？先生からのおすすめ本 —		
ヒューマンケアの専門家に不可欠な能力とは何か	人間総合科学科目 浅田 豊	6
思春期・青年期の心の闇を知る	看護学科 大関 信子	6
「家族」のこと、練習してみませんか？	社会福祉学科 杉山 克己	7
医療従事者必読の物理療法学：原理と実際	理学療法学科 成田 寛志	7
蔵書点検結果・開館時間のお知らせ		8

図書館長就任にあたって

—情報伝達の IT 化がひとにもたらしたもの—

附属図書館長 大和田 猛



昨今、学生の卒業研究論文の参考文献・引用文献の記載にインターネットアドレスの URL の記載が目立つようになった。これは、パソコンのキーを打ち込めば先行知見に関わる情報検索ができるとともに、不明な語句等も公開されているオンライン辞書で検索できる便利な時代(?)になったからである。私たちは、果たしてこの便利さ(?)を享受する方向にただついていけばよいのであろうか。

苦勞せず情報が手に入り、文章化することも昔(たった20年前)とは比べようがないほど容易になった。その一方で、学生のみならず、考える作業が簡略化され、レポートや研究論文等の文章表現が稚拙化したと感ずるのは私だけであろうか。

従前は文章を書く前に、まず、図書館の蔵書目録を参照したり書店に通いながらレポートや論文のテーマにあった書籍や資料を客観的事実として検索する。そして自らの主張したい事柄を収集した客観的事実に語らせるための文章構成を練る。構成案にしたがって文章化し下書きした後、最終的に清書する。今では考えられないほど、文章を書き上げるまでに時間と手間をかけており、それだけ自身が書く文章に真剣に向き合っていた気がする。手間暇かけて収集した資料、完成させた文章についての記憶は不思議と長期に残り身になるものが多い。

情報入手が容易になった現在、果たしてインターネット等から収集した情報がどれほど記憶に残るだろうか。多量な情報が一度にもたらされ、ともすれば、十分な吟味もせずいわば自動的に取捨選択をし、“使えそうな”情報を何でも利用してはいないだろうか。さらには、ワープロソフトの普及によって、何度でも容易に修正可能になった反面、文章を書き出す前に熟考することがなくなった。それだけ自分の書いた文章に対する責任感、重要性和直面できなくなってきているのではないだろうか。そのため、自身の記憶にも定着しにくいと考える。

また、IT技術の普及によって、人が感覚的に物事を捉えるようになってしまったことに関しての先人の指摘に賛成する。インターネットでは、文章記述

ももちろん見られるが圧倒的にシエマが多い。これは、同じ内容のことを文字で表現するよりもシエマで表現した方が情報伝達効率が良いためである。文章記述にしても、ご丁寧に重要部分には強調文字が使われ、全文を読む必要はほとんどない。つまり、脳への負荷が少なく直感的に理解することができるのである。この意味でインターネットは、少ない労力で容易に且つ意識せずに情報が入手できるテレビに次ぐ感覚的マスメディアといっても過言ではないと考える。視覚や聴覚といった感覚器から得た情報を脳内で体系化する必要がほとんど無く、考える作業をしなくても状況把握が容易にできることになる。一方、書物による情報伝達では、一つひとつの文字を目で追いつつ脳内で体系化して文章化し、いくつかの文章を読んで初めてある情報が伝わる。非常に脳への負荷が大きい、考える作業を通して入手情報が吟味されることになる。

さらに、インターネットの普及は一方で情報弱者の問題を浮き彫りにしていることを見逃してはならない。コンピュータの利用が苦手な方や利用環境が構築できない方はどのように情報入手すればよいのか。世間では、ユビキタス社会という言葉が一人歩きし、近い将来、コンピュータ・リテラシー(利用能力)を意識しなくても多様な情報に接することが可能になる社会が目指されているが、全ての人々に優しいユビキタス社会が本当に実現可能であろうか。

以上のように、IT技術の進歩による情報化社会は、私たちに情報伝達の簡便さをもたらしたが、一方で考える作業を放棄させてしまう危険性もあり、真に人に優しい情報社会とは言い難いと思う。この意味で、活字を媒体とする書籍が集積されている図書館の利用をお勧めしたい。

すなわち、図書館は、じっくりと書籍やデータを検索したり、書籍を選択したり、自分の抱えている課題に最も的確な文献を判断したり、という作業を通して、思考力、判断力、想像力などを養う知的空間であることを忘れてはならない。

メディカルオンラインの使い方

◆メディカルオンラインとは？

日本の医学系雑誌を検索・閲覧・ダウンロードできる電子ジャーナルです（学内限定）。現在約 500 タイトルの雑誌が利用できます。看護系雑誌は図書館にある雑誌との重複が多いですが、理学療法系雑誌は図書館にはない雑誌が含まれています。

◆文献から探す(医中誌)

医中誌で検索した論文がメディカルオンラインで利用できる場合には、論文情報の上にメディカルオンラインのアイコンが表示されています。アイコンをクリックすると全文の閲覧・印刷ができます。

◆雑誌のタイトルから探す(図書館ホームページ)

雑誌のタイトルがわかっているときには、雑誌のタイトル一覧から検索することができます。図書館ホームページにある電子ジャーナル「メディカルオンライン」の「バックナンバー」と書かれたところをクリックします。雑誌名はアルファベット順、五十音順に並んでいるので、雑誌名の頭文字のタブをクリックすると簡単に探すことができます。見たい雑誌名が見つかったら選択して「一覧へ」をクリックすると雑誌の巻号リストが表示されるので見たい巻号を選択してください。論文一覧で【全文ダウンロード】があるものはクリックすると全文の閲覧・印刷ができます。

◆利用時の注意点

大量のダウンロードは厳禁です。違反すると大学全体が使用停止となるので注意しましょう。ダウンロードした文献の複製・再配布もできません。

聞蔵Ⅱの使い方

◆聞蔵Ⅱビジュアルとは？

朝日新聞の戦後すべての記事を検索できる、国内最大級の新聞記事オンラインデータベースです。(新聞縮刷版 約 660 冊分、約 715 万件＝06 年 5 月現在)

①戦後紙面イメージ (1945～1984)

②テキスト+切り抜きイメージ(1985～当日) の 2 種類のデータベースから構成されています。

◆収録内容

・ 1945 年～1984 年：朝日新聞紙面を収録

・ 1985 年以降

朝日新聞 1985 年以降の記事 (2005 年 11 月～当日：切り抜きイメージ表示)

AERA 1988 年 5 月 (創刊号) ～最新号

週間朝日 2000 年 4 月～ (ニュース面)

現代用語「知恵蔵」 最新版

◆利用時の注意点

- ・ 人物データベースは利用できません。
- ・ 朝日新聞社外の記事で著作権等の関係上、表示されないものが一部あります。
- ・ 戦後紙面イメージの閲覧には Microsoft Internet Explorer (6.0 以上) のプラグイン・Document Skipper が必要です。切り抜きイメージは Adobe Acrobat Reader で見ることができます。(Macintoshには対応していません。また、Netscape、Opera等では動作しません。)

マイライブラリーへの思い

土曜開館のアルバイトで、図書館業務を通して感じたことや初めて本学の図書館を利用しての感想を「マイライブラリーへの思い」として執筆していただきました。



一人ひとりの気遣い

看護学科 2年 浦田 真里子

「図書館」というと、私は、静かで落ち着く場所というイメージがあった。勉強するには最適の場所だ。加えて、冷房が効いているため、読書をしつつ、涼みにきたりしていた。しかし、それは図書館利用者の視点から感じた図書館であり、私は六月に二回ほど図書館でアルバイトをさせていただいたのだが、図書館職員の方々の感じている図書館とはまた違うのだということを感じた。

アルバイトでさせていただいた仕事は、主に本の配架で、その他はカウンターで本の貸し出し・返却を管理するという仕事だった。配架の仕事は思っていたよりとても大変で、一冊一冊をラベルと同じ場所に並べなければならず、単に返却された本を棚に並べれば良いと考えていた私はすごく苦勞した。涼しいはずの図書館が暑く感じられた。しかし、配架をしたことで図書館にあるあらゆる本に触れることができた。今までは探している本をパソコン検索し、その本がある棚付近だけをうろろしていたため、特定の本にしか触れていなかった。特にほとんど三階は利用したことがなかったため、三階の配架に行った時には私の知識の中にはないような多くの本に触れることができた。

図書館で働かせていただき、多くの本に触れることができ、貴重な体験をさせていただいたと思う。また、私たちが早く利用できるのは職員の方の苦勞があってこそだと思い、より早く利用するためには、利用者一人ひとりの利用の仕方が大切になるのだと感じた。

アルバイトを通して感じたこと

社会福祉学科 2年 川添 万菜

私は今回、初めて図書館のアルバイトをしました。仕事の内容は思っていたよりもたくさんあり、初めはうまく仕事をこなせるかどうか心配でした。しかし、職員の方が一つ一つ丁寧に仕事を教えて下さったので、少しずつ仕事に慣れていくことが出来ました。

仕事の中で特に大変だったのが、返却された本を棚に戻す作業です。この作業は、本を元の場所に戻すことはもちろん、同時に、順番に並んでいない本を並べ直したり、きちんと戻されていない本をきれいに並べなければなりません。この作業を行いながら、私はこれまでの本の利用の仕方を振り返りました。

これまで私は、使った本を“この辺だったかな”と何となく棚に戻していました。しかし、何のために本一冊一冊にラベルが付いているのでしょうか。それは、本を探す時、戻す時にそれらの作業をしやすくするためです。順番通りに本が並んでいなければ、次に利用する人が本を見つけにくくなってしまいます。

“利用した本は元の場所に戻す”

私は、アルバイトを通してこの当たり前のことに気づかされました。

確かに、急いでいる時や切羽詰っている時などはこのようなことは忘れがちです。しかし、私を含め、図書館を利用する一人一人ひとりがこの小さな心がけを持つことで図書館がより利用しやすいものになるのだと思います。

A Super Librarian

理学療法学科 1年 清藤 可奈子



入学したての頃、まずは学内探検とばかりに構内をウロウロし、もちろん図書館もと思い、中に足を踏み入れた。ものの数分で図書館探検は終わった。『これだけなの?』と物足りなさを感じ、これからの4年間、この図書館で十分なのだろうかと少し不安に思った。

ところが、大学生活にも慣れてきた頃、私のこの不安は一掃された。レポートの課題が出され、ここで私はsuper librarianに救われたのである。ネットや図書館であれこれ資料を集め、コピーの山を崩しながらレポートを完成させていったのだが、すっかり参考文献のことを忘れていた。『著者名、タイトル、出版社…』ネットの資料ならどうにかできたが、本の方はどうにもできなかった。一か八かコピーの申込書を調べさせてもらおうとカウンターへお願いした。丁寧にも対応して下さった方が一枚一枚申込書を調べてくれた。それでも無数にある紙の中からは私のものは見つからず、諦めようかと思った時、後ろの事務所からもう一人出てきた。事情を説明し、手元に持っていた本のコピーを見せると一言『このページ数と葉の紐の感じからすると、あっちにある本じゃないかなあ。』と言い、すたすたと私を書棚へ案内し一冊の本を手渡してくれた。彼女は私が探していた本をそのコピーを見ただけでぴたりと探し当てた。

このsuper librarianの神業を目の当りにして以来、資料集めや調べもの、試験前などには大いにこの図書館を活用している。これからもどんな神業にお目にかかれるのか楽しみである。

居心地の良い場所

社会福祉学科 2年 對馬 幸子



私は小学校の図書室でたくさんの本に出会ってから、中学、高校と週に3回は本を借りるほど読書三昧でした。定番の伝記はもちろん、いろいろな国の神話、詩集から江戸川乱歩や三島由紀夫とジャンルをとわず読み、図書カードもどんどん増えていきました。それに図書館の静かな落ち着いた雰囲気が好きで、ただ借りて家で読むだけでなく、放課後に残って読んで帰るのも趣味の一部(?)だった感じがします。学校のでは満足出来ずに市立・県立図書館にもよく行っていました。それが、成長と共に勉強する場へと変わり、図書館の役割も少しずつ変化していきました。私は家に帰ると母親でもあるので、子どもが眠ってから勉強するのでは時間が足りず、授業の空き時間に図書館を利用してやるようにしています。

今は、分からないことがあるとすぐにインターネットを通してたくさんの情報を得ることが出来ます。でも、その真偽は確実ではないし、誰が書いているのかさえはっきりしない事が多いと思います。それに比べて、図書館は探したい分野の本を自分の目で見て決められるのがいいですね。知らなかった作家の本を少しめくってみたら、おもしろかった、なんていうのも図書館ならではの楽しみだと思います。ただ、その楽しみも編入後の新しい環境へのペース配分がまだまだで、時間がとれていませんが…。もう少し余裕を持って心の栄養をつける為にも、本をどんどん借りて読みたいと思います。もちろん、勉強する為にも利用させて頂きたいです。

読んでみませんか？先生からのおすすめ本

～ ヒューマンケアの専門家に

不可欠な能力とは何か～

人間総合科学科目講師 浅田 豊

書名：PBLのすすめ
著者名：B. マジェンダ、竹尾恵子
出版社：学習研究社
出版年：2004年3月

卒後、ヒューマンケアの専門家となられる学生諸君に、在学中に是非とも向上させてもらいたい能力・資質がある。それは、問題発見・解決能力であり、また主体的学習能力、自己評価力である。

本書では、初学者にも、あるいは一定量の学習・研究を終えた人にとっても、涵養すべきこれら諸能力に関連の深いPBL、小グループ学習、ファシリテーター等の概念が分かりやすく、体系的にまとめられており、示唆に富んでいる。PBLとはまず学習者が問題に出合い、問題解決の方法を考え、そして各グループに分かれ調べ学習等を自発的に展開しつつ、新たな知識を問題に適用していくものである。このことに関し第3章ではPBLと従来型学習法との違い、PBL教育の実際の効果、費用面、問題点等が具体的に示されている。

このPBL実施のベースには無論、教育原理が存在するが、「開かれたコミュニケーションの維持、ラポールの形成、レディネスや評価の相互確認、学習者と指導者が互いに尊敬し合うこと」といった基礎的的原理的前提を学生、教員の双方が一度振り返るための手助けも、本書は読者に与えてくれる。

また、豊富な事例を用いて理論や専門用語を補足する箇所、囲みコラム、各章単位での学習目標・まとめの文章を適宜挿入するとともに、「イラストを入れて、より見やすく、理解しやすい」ようにするなどの記述上の工夫がよくなされており、読み進めるのが楽しい。

さらに本書は、批判的思考や生涯を通じた自己主導型の学習の方法、ポートフォリオ評価の在り方等保健医療福祉職者にとって有益な視点・能力について、考えを深めさせてくれる点で価値があり、3学科の専門領域を問わず、本書を読まれて得るものは大きい。

～ 思春期・青年期の心の闇を知る～

看護学科教授 大関 信子

書名：海辺のカフカ
著者名：村上春樹
出版社：新潮社
出版年：2002年9月

私たちの仕事は「人間」を対象とします。どんなに素晴らしい知識・理論・技術を身につけても、人間であるクライアントを深く、より正確に理解できなければ、今まで学んだことが生きてきません。すべてが、人間理解の上に成り立ちます。

近年、若者の犯罪が急増し深刻な社会問題となっています。中高生が親や兄弟、そして、小さな子どもたちを殺すという現象は、私が子どもの頃にはなかったように思います。子どもが成長するのに大変な今の時代だからこそ、子どもたちの心を理解するように努力するのが、私たちの務めだと思います。

不可解な思春期・青年期の心理を理解する一つの手がかりが、村上春樹の作品にはあります。「ノルウェーの森」に始まり、多くの作品が、私たち読者に若者の心のひだを提示してくれます。

「海辺のカフカ」は冬休みに読もうと思いつき上下2巻を借りましたが、仕事に忙殺され途中で読んで返却しました。後日、借りに戻ったら、既に、誰かが借りて読んでいたようでした。

なぜ、「海辺のカフカ」か、というと、この作品がアメリカでは大人気であり多くの人に読まれているというのです。なぜ、アメリカ人の心を掴んでいるのか知りたいという楽しみもあります。

夏休みなど人気の少ない図書館で、静かに本を開き著者と向き合う、というのが私の最大の楽しみの一つです。村上春樹と向き合うことで、村上春樹が若者の心の機微やありようについて語りかけてきます。学生の皆さんには、デカルト、ナイチンゲール、フロイドや自分の専門以外の著者たちと心行くまで図書館で出会うことをお勧めします。著者が語りかけてくるのを体感してください。そして、出会いの後、自分が少し豊かになった感じも。この豊かさが、クライアントとの出会いに大切です。自分育ては自分の手で。図書館で偉人たちと出会ってください。

～「家族」のこと、練習してみませんか？～
社会福祉学科助教授 杉山 克己

書名：家族の練習問題～木陰の物語～
著者名：団士郎
出版社：ホンブロック
出版年：2006年1月

簡単に読める本を紹介しようと思った。紹介しても読んでもらえないようではつまらないから。読み手が「考える」本を紹介しようと思った。単に知識を得たり、世の中がすっきり見えることよりも、時にはウンと悩み考えることが大切だと思ったから。少し大人びた本を紹介しようと思った。若い人にこそ少し背伸びをして欲しいと持ったから。

そして、誰でも話題にできる素材でありながら、どの対人支援専門職でも、そしてそれを志す人たちにも大切な事柄を取り上げている本を紹介しようと思った。

ある人にとっては時に「問題」の所在地であり、時に「問題」解決の源泉であり、自分を傷付ける場であり、あるいはエネルギーを与えてくれる最も大切なものであり…そして喜怒哀楽・幸不幸の全ての場でもあるかもしれない。対人支援専門職にとっては、最も重要な足掛かりや「解決」の糸口であることもあれば、支援・援助の対象そのもの、「問題」そのもの…ということもあるかもしれない。

「家族」。

圧倒的に多数の人々は「家族」の中に生まれ、「家族」の中に育つ。そして多くの人はやがて「自分の家族」を形成していく。その「家族」の中で、こんなにも多くの出来事が起きているのに、(日本の)学校では「家族」をどう組み立てていくのか、そもそも「家族」って何なのか、家族の「技法」…などはほとんど教えてくれない。「家族だから…」でいつも済ませられればよいのだけれど…。そこで、皆さん！「家族」から少し距離を持てるようになっていっていると思うので、今のうちに、ちょっと「家族の練習問題」をやってみませんか？

～医療従事者必読の物理療法学：原理と実際～
理学療法学科教授 成田 寛志

書名：EBM物理療法 普及版 原著第2版
著者名：Michelle H. Cameron 編著
渡部一郎監訳
出版社：医歯薬出版
出版年：2006年1月

この本の原著は物理療法のバイブルと言っても過言ではないと思う。従来、温熱、寒冷、水治などの物理療法は経験的で、患者の主観的評価として扱われてきた。しかし、リハビリテーションにおける物理療法の分野において、これほどEBMに基づいた文献を集め、解説した著書はみたことがない。種々の治療方法に関して症状軽快のメカニズムを科学的に解説しようとして試みている。

初版の監訳を担当された故眞野行生教授(北大リハビリテーション医学講座)が原著初版に出会った時の欣喜雀躍している様子が目に浮かぶ。また、続いて第2版を監訳された当大学理学療法学科の渡部一郎教授と11名の訳者のこの本に対する思い入れが全ページに感じられ、日本語としてもたいへん読みやすい訳書である。

本書は3部構成である。まず疼痛などの諸症状を生理学、病理学的にとらえ、理論的にわかりやすく詳説している。何故患者が困っているのか、基本に立ち返って考えることができる。次に実際の各物理療法を基礎理論、効果、副作用などに関してEBMに則して詳しく説明している。各章末の症例の提示により実際の治療現場を想定できる。そして、最後に将来の物理療法のあり方と研究の方向性が示されている。リハビリテーション医療を志すものにとって座右に常備しておきたい著書である。

<本の配架場所>

書名：PBLのすすめ

請求記号：492.907||Ma32 (2階開架)

書名：海辺のカフカ 上・下

請求記号：913.6||Mu43||1、2 (3階開架)

書名：新編家族の練習問題 (ゴマブックス刊)

請求記号：367.3||D35 (2階開架)

書名：EBM物理療法

請求記号：492.5||C14 (2階開架)



—平成 18 年度蔵書点検結果—

平成 18 年度蔵書点検は 8 月 28 日(火)から 8 月 31 日(木)までの期間で実施しました。点検対象は 2 階開架書架、3 階開架書架、1 階指定書架、参考書架、そして、書庫の本すべてです。点検期間中は、夜間開館を含め、休館として作業を進めました。学生のみなさんはちょうど夏季休暇期間でしたので、大きな影響はなかったかと思いますが、認定看護師課程の受講生の方にはたいへんご迷惑をおかけしました。しかし、対象となる本が移動(館外貸出も含め)してしまうと、点検作業ができないため、今後も蔵書点検のための臨時休館についてはご理解いただきたいと思ひます。

実際の蔵書点検は、まず、書架の整理から始まります。点検作業前に図書館員全員で通常業務の時間をぬって、請求記号順にちゃんと本が並んでいるか確認しました。「どうしてこんな本が！」という感じで、間違って配架されている本が見つかります。書架整理後いよいよ点検作業を行います。今回は学生の方にもお手伝いいただき、3 台のパソコンを使用し、約 8 万冊の本のバーコードを読み取りました。結果は下記のとおりです。

在架資料数(書架にあった本の冊数)	79,129 冊
不明資料数(今回見つからなかった本の冊数)	65 冊
発見資料数(行方不明本が点検で見つかった冊数)	9 冊

ご協力ありがとうございました。

《開館時間のお知らせ》

無印は9:00~21:00、■は9:00~16:45、□は休館です。

2006年10月							2006年11月							2006年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30		
29	30	31											31							

2007年1月							2007年2月							2007年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31	25	26	27	28	25	26	27	28	29	30	31						

青森県立保健大学附属図書館だより ラポール 第7号 平成18年10月発行

発行：青森県立保健大学附属図書館

〒030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1 TEL:017-765-2011

URL <http://www.auhw.ac.jp/>

この印刷物は 500 部作成し、印刷経費は 1 部当たり 126 円です。